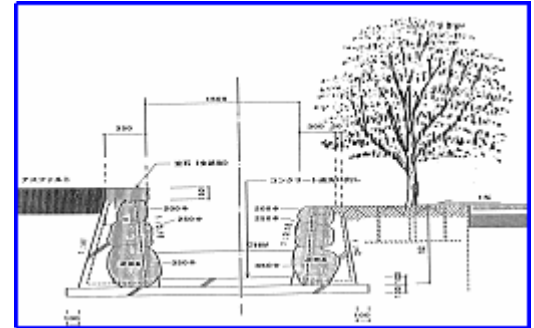


疋田舟川用水（築約200年）

場所・施設概要



- ▶ 場所 敦賀市(疋田)
- ▶ 水源 五位川
- ▶ 延長 909m
- ▶ 開水路、ポケットパーク 2ヶ所
- ▶ 受益農地面積 約 8ha
- ▶ 流量 0.63 m³/s



歴史

疋田舟川用水は、五位川より取水し、疋田集落を流下し、水路沿岸および下流地域の農地をかんがいでいます。

疋田舟川用水の歴史は古く、大浦～中村間(現滋賀県伊香郡西浅井町大浦～西浅井町中)に川舟を通すことを陳情し、文化12年(1815年)幕府は小浜藩と協議して、大阪の富商飾屋六兵衛を資本主として敦賀から疋田間に舟川を開削し、疋田から山中までの道路を改修しました。以後、天保5年(1834年)までの約20年間、この舟川を活用して北国筋の城米が多く大浦へ運ばれました。

この舟川の特長は、水の流が速いため水位が上がらず、積荷を満載すると砂底がつかえるので、川底に胴木(どうぎ)を敷設して、舟の上りを滑らかにする工夫がなされていました。

平成9年からは、老朽化した護岸の機能改善とともに、江戸時代の面影の復元を図る整備を行い、平成16年3月に完成しました。

参考：敦賀市史(敦賀市)



地域での役割

現在の疋田舟川用水は、約8haの農地のかんがい用水としてだけでなく、疋田地区の防火用水および生活洗浄用水としても利用されています。また、現状の石材を再利用した護岸やポケットパークは地域の方々に疋田舟川の歴史や水と親しみ、ふれあえる場所として活用されています。



管理状況

用水や施設の管理は、地域住民と敦賀市が協力して行っています。

用水の状況

